

HIDEYO SALON

お待ちしております。サロン・コンサート N.27 のご案内です。

今回、第一部では“[Malta \(マルタ共和国\)](#)”を皆様にご紹介いたしましょう。シチリア島の南、地中海のほぼ中央に浮かぶマルタ島は、「地中海のおへそ」と呼ばれ、太古より交通や戦略の重要な拠点となり、多くの民族や文明が行き交いました。その起源は、約 7000 年前の新石器時代にまで遡り、世界遺産に登録された遺跡をはじめ、数々の魅力あふれる歴史エピソードに彩られています。演奏させていただく曲は、P.チマーラ作曲「[海辺の光景](#)」他、地中海をイメージした歌を中心に選びました。ピアニスト[正田歩](#)さんは、マルタに影響を及ぼした一つの国に想いを馳せて、C.サンサーンス作曲の「[エジプト風](#)」と題された華やかな曲をお届けいたします。

第二部のゲストには、皆様お馴染みのヴァイオリン奏者：[マウロ イウラート \(Mauro Iurato\)](#)さん、彼とデュオ・ユニット“UniDuo”を結成しているピアニスト：[ジュゼッペ マリオッティ \(Giuseppe Mariotti\)](#)さん、その彼と 25 年来の友人であるチェロ奏者：[クリスチャン シュルツ \(Christian Schulz\)](#)さんをお迎えいたします。いずれもウィーン音楽大学卒業後、国際的に活躍しておられる方々です。幸運な偶然が重なり、この『トリオ・コンサート』が実現します。本物のヨーロッパ音楽の魅力を、その生の音色に耳を傾けながら実感していただければ、本当に嬉しく思います。このチャンスを、どうぞお見逃しなく！

演奏曲目：[バッツィーニ](#)作曲超絶技巧の名曲「[妖精の踊り](#)」他

今回のフェスタ・イタリアーナは、手作りパルメザン・スティックです。チーズの王様“[パルミジャーノ・レッジャーノ](#)”は、2年以上熟成されたパルマの超硬質ハードチーズです。その本来の美味しさを存分に味わって頂く為に、イタリアより直輸入したパルメザンを使って手作りいたします。それを引き立てるのは、イタリアのワイナリーから今年 4 月に蔵出しされる“[バルベラ](#)”。有機栽培ぶどう 100%、保存料無添加、フレッシュ生ワイン（赤）。お楽しみに！

2010 年 03 月 30 日 南雲英代

* [L.S.N.会員の皆様がお誘い下さいました方々も、割引チケットをお求めいただけます。](#)

* [チケットは、先着 180 名様です。なるべくお早めにお求め下さいね。](#)

● ゲスト・プロフィール ●

マウロ イウラート Mauro Iurato ●ヴァイオリン

トリノ生まれ。9才でエレナ・グイッツアルディ教授に学ぶ。トリノの“G.ヴェルディ”国立音楽院にてマッシモ・マリン教授に師事し、1997年に最優秀成績で卒業、同時に「デ・ソノ」音楽協会により奨学金を得て、フランコ・グッリ、コッラード・ロマーノ、サルヴァトーレ・アッカルドなどに師事する。1998年にウィーン国立音楽大学に入学、ミヒャエル・フリッセンシュラーガー教授のもとディプロマを取得。ストレージ、トルトーナ、ピエツラ、ヴィットリオ・ヴェネトなど数々の国際コンクールで優勝。その他、リサイタル、ソリストとしてオーケストラと共演。アンサンブルなどで広く成功を収めてきた。2002年にミヒャエル・フリッセンシュラーガー教授と「ラ・ヌオーヴァ・アルカ」音楽協会と共にWTV(ウィーン・トリノ・ヴィルトゥオーゾ)国際室内楽団を結成している。2006年よりアンサンブル神戸のコンサートマスター、2007年より大阪フィルハーモニー交響楽団のゲスト・コンサートマスターを務める。

ヴァイオリンは1690年ジョッフレード・カッパ作「コッラ・デッラ・キエーザ」弓はルッキ作。

クリスチャン シュルツ Christian Schlulz ●チェロ

ウィーン生まれ。ウィーン国立音楽大学卒業。チェリスト、指揮者であるクリスチャン・シュルツは、現在ウィーン・モーツァルト コレギウムの音楽監督・主席指揮者として活躍している。また、2006年から、ウィーン楽友協会ホールにて開催される“Schwingungen”シリーズの音楽監督を務めている。ソロチェリストとして活躍する一方、指揮者としてウィーン・シンフォニカー トンキュンストラ(スイス)、モントリオール・シンフォニー(カナダ)、及び室内オーケストラのゲスト指揮者として、ヨーロッパ、USA、カナダ、アジアにて演奏活動を行っている。指揮者として『クラシック・ハイライト』ウィーン・シンフォニエッタ(or.)、などのCD録音がある。

ジュゼッペ マリオッティ Giuseppe Mariotti ●ピアノ

幼い時からコンサート活動をはじめ、イタリアのピアチェンツァ音楽院でピアノ、オルガン、作曲を学ぶ。1984年ウィーン国立音楽大学在籍以来、来日までの19年間をウィーンに居る。ウィーン国立音楽大学には6年間在籍し、ピアノ奏法をハンス・グラーフ教授のもとで研鑽を積み、ヨハン・セバスチャン・バッハの作品から現代作曲家の作品までの幅広いレパートリーをこなす卓越した演奏家である。また、ウィーンの古典音楽に特別な愛着を持ち、自身が所有する古典楽器で積極的に演奏する。ソリスト、室内楽奏者、そして、声楽の伴奏者として、ヨーロッパ、アメリカ、ロシア連邦、イスラエルで演奏活動を精力的に行い、ラジオ・テレビにも数多く出演、音楽出版の寄稿家としても活動している。2003年よりウィーン国立音楽大学と学術交流協定を結んでいる徳島文理大学音楽学部へ客員教授として、2007年4月より同学部長として学生の指導にあたっている。